

Title	主旨説明と野生動物観光の現況
Author(s)	敷田, 麻実
Citation	第24回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集: 62-62
Issue Date	2018-11
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16907
Rights	Copyright (C) 2018 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, 第24回「野生生物と社会」学会大会プログラム・講演要旨集, 2018, p.62.
Description	セッション: 知床国立公園における野生動物観光に対するICTの影響と課題

主旨説明と野生動物観光の現況
Introduction and Current Status of Wildlife Tourism

敷田 麻実
Asami SHIKIDA

このセッションでは、動物を主たる観光対象または観光資源として扱う野生動物観光について、その現状と課題を ICT 技術の進歩や普及との関係から議論する。

観光地となっている国立公園でも野生動物を観光対象にした観光が行われている。特に大型の動物は観光魅力となりやすく、それが旅行商品や主たる観光対象になることも多かった。一方、野生の動物が観光資源化されることで、動物の行動変容などの生態学的な影響が生じ、それに対する批判も多かった。そのため、影響の緩和などの対策が観光現場の課題になっている。

しかし ICT の発達は個人レベルの情報環境を大きく変化させた。スマホなどの個人情報機器の普及とインターネットが、観光資源を一方的に資源化し、自らのイメージに沿って公開できる手段を観光客に提供した。その結果、現実の観光現場における動物アトラクションだけでなく、ネット上での動物のイメージの拡散や情報の共有も、対策に影響し始めている。

このセッションでは、ネット空間にも拡がりつつある対策現場の実情を、リアルな対策現場と対比させながら提示し、関心のある参加者と議論する。